

浅間山

○火山活動度レベル（平成 17 年 11 月）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成 17 年 11 月）

火山活動はやや活発で、山頂火口内は高温状態が続きました。

火山性地震および火山性微動の回数ならびに二酸化硫黄の放出量は依然としてやや多く、微弱な火映が時折観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

表1 浅間山 火山情報の発表状況(平成 17 年 11 月)

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 195 号 ～（毎週金曜日発表） 火山観測情報第 198 号	4 日 16:00 ～ 25 日 16:00	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動）。火山活動度レベルは 2。第 196 号と第 198 号には火山ガス観測結果を含む。	2

○地震および微動の発生状況

火山性地震の回数は、下旬に一時的に 1 日あたり 50 回を超えるやや多い状態でしたが、それ以外は 1 日あたり 10～30 回程度のやや少ない状態で経過しました（図 1-①～③、表 2）。火山性地震の震源のほとんどは山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、これまでの震源分布と比べて特に変化はありません（図 2）。

火山性微動の回数は、1 日あたり 0～6 回とやや多い状態が続いています（図 1-④、表 2）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上おおむね 200m（最高は 1 日の 400 m）でした（図 1-⑤、図 3、表 2）。また、夜間に山麓の高感度カメラで捉えられる程度の微弱な火映が時折観測されており、火口内は高温状態が続いていると推定されます。しかし、火映が観測される頻度には減少傾向がみられます（図 1-⑥、表 2）。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

8 日、21 日及び 25 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 500～1,000 トン（8 日）、200～600 トン（21 日）、300～500 トン（25 日）で、依然としてやや多い火山ガスの放出が続いています（図 1-⑦）。

※この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等を利用して作成しています。

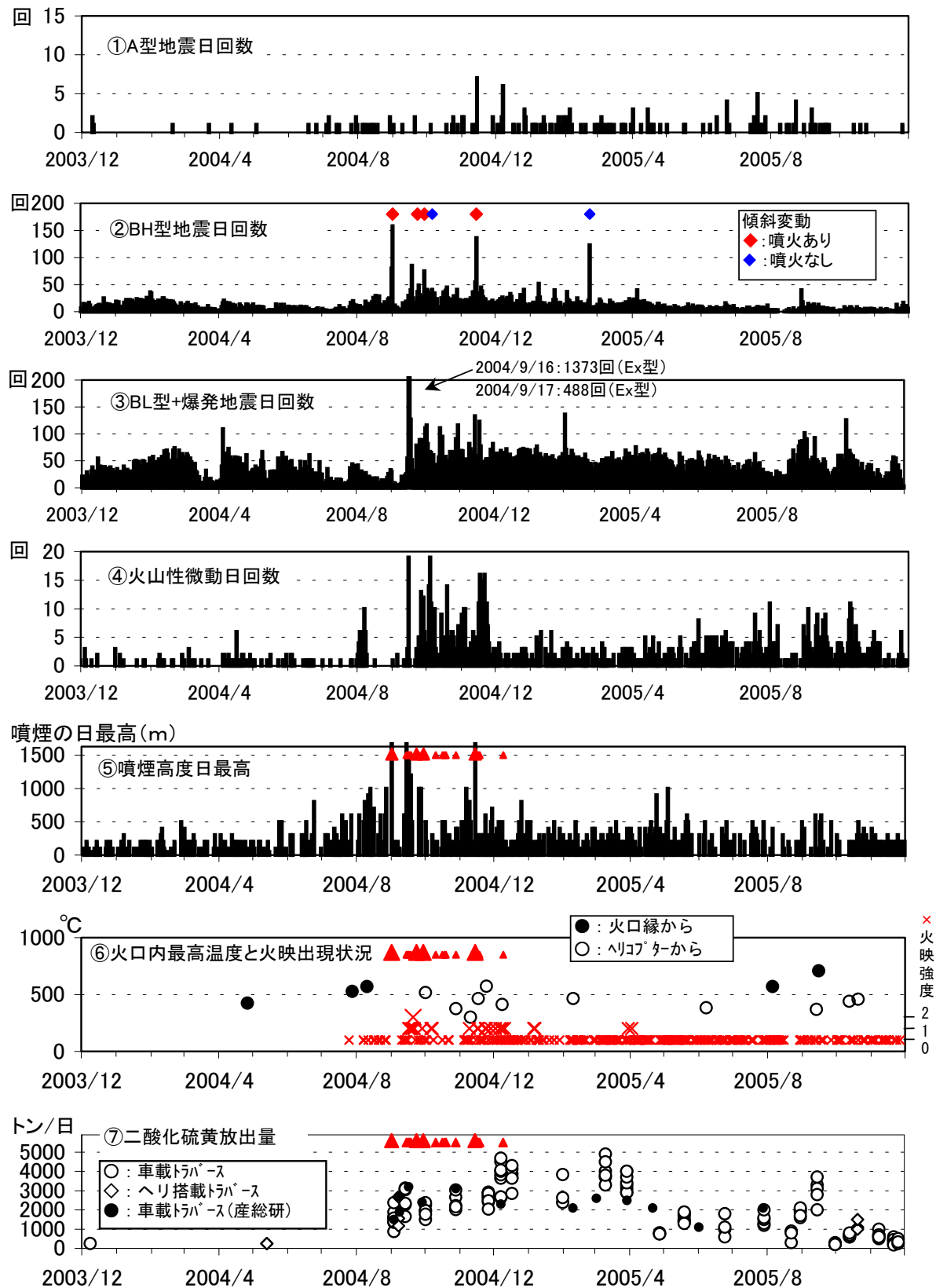


図 1 ※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2003 年 12 月～2005 年 11 月）

グラフ中の▲は中爆発、△は小噴火以下を示す。

⑦の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれている。

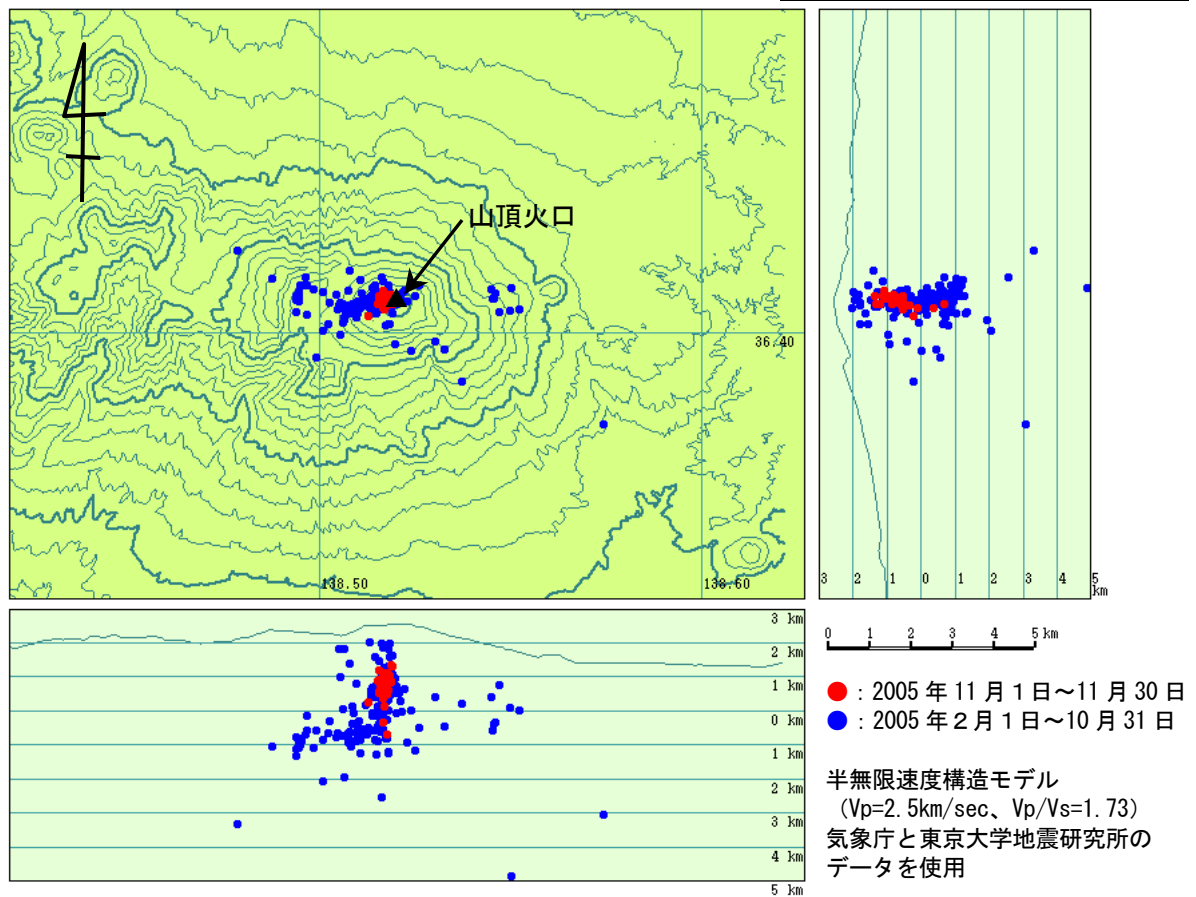


図 2※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2005 年 2 月～11 月）

震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、今期間も特に変化はなかった。



図 3 浅間山 山頂火口からの噴煙の状況（2005 年 11 月 21 日、北西上空から撮影）

山頂火口の形状等に特に変化はなく、噴煙が火口縁上約 100m まで上がり北～北東へ流れていた。

○地殻変動の状況

気象庁による傾斜観測や山体周辺でのGPS連続観測（図4）、気象研究所と共同で行っている光波測距観測のいずれもで、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

また、国土地理院による広域のGPS観測では、浅間山山体の膨張を示すゆっくりとした伸び（浅間山の深部へのマグマの注入・蓄積を示すと思われます）が今年の6月頃から次第に鈍化し、最近はやゆるやかな縮みに転じています。

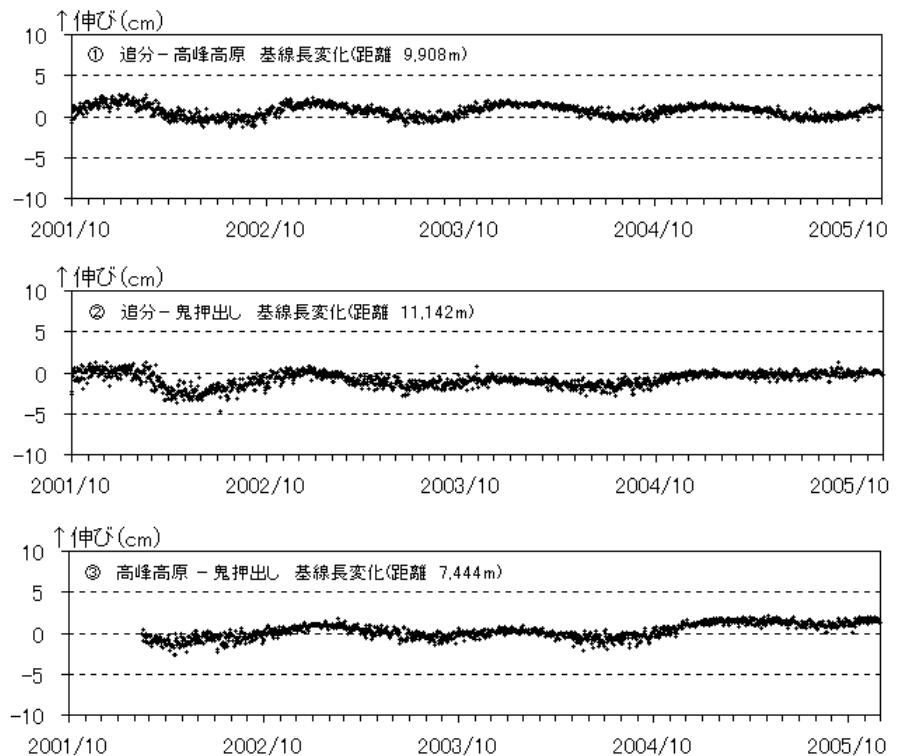


図4 浅

間山 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2005 年 11 月）

基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮み傾向は季節変動による変化です。

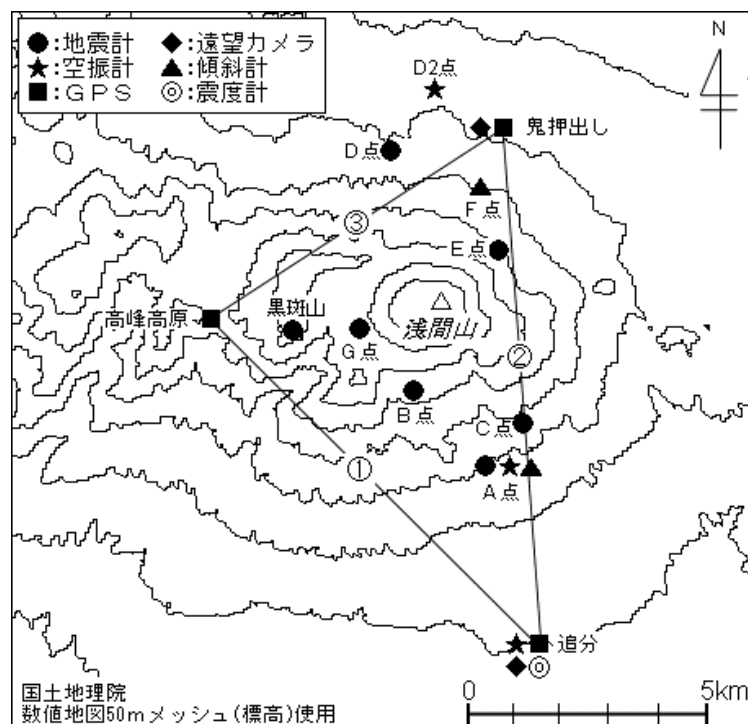


図5 浅間山

気象庁の常時観測点配置図

表 2※ 浅間山 2005 年 11 月の火山活動状況

2005年 11月	噴火の回数		火山性地震の回数							微動 回数	噴煙の状況		火映 強度	備考
	中規模	小規模 以下	A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震 合計	日最高 (m)		噴煙量			
1日	0	0	0	1	42	0	0	43	3	400	2	0		
2日	0	0	0	3	27	0	0	30	4	200	2	0		
3日	0	0	0	0	27	0	0	27	2	200	2	×		
4日	0	0	0	2	18	0	2	22	4	300	2	0		
5日	0	0	0	2	17	0	0	19	4	200	2	×		
6日	0	0	0	6	19	0	0	25	0	×	×	×		
7日	0	0	0	2	33	0	0	35	0	100	2	×		
8日	0	0	0	1	25	0	0	26	0	200	2	－	SO ₂ 放出量:500～1,000トン/日	
9日	0	0	0	3	22	0	0	25	1	200	2	×		
10日	0	0	0	3	15	0	0	18	1	200	1	0		
11日	0	0	0	5	14	0	0	19	1	100	1	0		
12日	0	0	0	0	15	0	0	15	0	×	×	×		
13日	0	0	0	1	4	0	0	5	2	200	2	0		
14日	0	0	0	3	20	0	0	23	0	100	1	0		
15日	0	0	0	0	27	0	0	27	0	300	2	×		
16日	0	0	0	2	19	0	0	21	0	200	2	0		
17日	0	0	0	0	10	0	0	10	1	200	2	×		
18日	0	0	0	1	8	0	0	9	0	200	2	×		
19日	0	0	0	2	27	0	0	29	0	200	1	×		
20日	0	0	0	13	47	0	2	62	0	200	2	×		
21日	0	0	0	6	57	0	0	63	1	100	1	0	SO ₂ 放出量:200～600トン/日	
22日	0	0	0	6	48	0	0	54	2	200	2	×		
23日	0	0	0	5	55	0	7	67	1	200	2	0		
24日	0	0	0	5	31	0	2	38	6	300	2	×		
25日	0	0	1	11	42	0	2	56	2	200	1	×	SO ₂ 放出量:300～500トン/日	
26日	0	0	0	17	22	0	2	41	1	200	2	0		
27日	0	0	0	11	31	0	1	43	0	200	1	×		
28日	0	0	0	11	15	0	3	29	1	200	1	－		
29日	0	0	0	8	2	0	0	10	0	200	2	×		
30日	0	0	0	6	3	0	2	11	0	200	2	×		
合計	0	0	1	136	742	0	23	902	37	400	2	0	最大値	

1) 火山性地震の種類は以下の通りです

A型地震：高周波地震

BH型地震：約 3Hz 以上が卓越するやや低周波地震

BL型地震：約 3Hz 以下が卓越する低周波地震

EX型地震：爆発的噴火に伴う爆発地震

2) 噴煙の高さおよび噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は 1～7 の 7 階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

3) 火映の強度は 0～3 の 4 段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度

1：肉眼でようやく認められる程度

2：肉眼で明らかに認められる程度

3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

—：火映なし

×：視程不良